

水道管の凍結・破損にご注意！



寒波が訪れる季節となりました。これからの季節、気温が特に下がった日に水道管が凍結して水が出なくなったり、凍った水で水道管が破損したりすることがあります。水道管が破損して漏水が発生すると、水道料金が高額となったり、漏水箇所を直すために多額の修理費がかかったりします。ここでは、自宅でできる水道管の凍結防止策などをご紹介します。

❄️ こんなときは特に注意！

- ▶ 外気温がマイナス3℃以下になる恐れがある。
- ▶ 露出している水道管や蛇口がある。



- ▶ 屋外の日当たりが悪い場所や、冷たい風が当たる場所に水道管や蛇口がある。
- ▶ 長期で家を不在にする。

凍結してしまったら？

- ◆ 自然に解けるのを待つ。
 - ◆ 蛇口にタオルなどをかぶせて、その上からゆっくりぬるま湯をかける。
- ※熱湯をかけると急激な温度変化によって、水道管が破損する場合があります。
- ◆ ぬるま湯を準備できない場合には、ドライヤーの熱で解凍する。
- ※凍結により蛇口を開けても水が出ない場合は、蛇口を開けたままにせず、必ず閉めるようにしてください。

タオルをかぶせてぬるま湯で！



凍結で水道管が破損してしまったら？

メーターボックス内の止水栓を閉めて水を止め、敦賀市指定給水装置工事業者に修理を依頼してください（止水栓から宅内側の修理費は所有者の負担）。なお、メーターボックスが見当たらない場合は、破損した箇所をタオルなどで覆い、修理の依頼をしてください。アパートや社宅などの場合は、管理人に連絡し、修理の依頼をしてください。

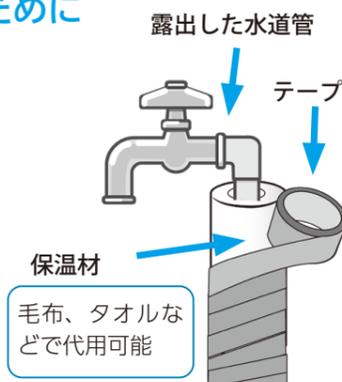


▲敦賀市指定給水装置工事事業者

水道管を凍結させないために

◆ 水道管に保温材を取り付ける

露出した水道管や蛇口には、ホームセンターなどで保温材を購入し、巻き付けてください。ただし、気温が著しく低下したときなどは保温材を巻き付けてあっても凍結することがあります。



◆ 少量の水を流しておく

特に冷え込むことが予想される場合、蛇口を少し開いて、糸を引く程度に水を流しておくことで凍結しにくくなります。（バケツなどを置いて流した水をためておくと有効に活用できます。）



円滑な検針にご協力ください

冬季は、積雪のためメーターボックスの位置が分からなくなったり、凍結でふたが開かなくなったりして、検針ができない場合があります。検針時期には、メーターボックス付近の除雪と併せて、位置が分かるように目印を設置する、メーターボックスの上に物を置かないなど、円滑な検針にご協力をお願いします。



問い合わせ先 上水道課 ☎ 22 - 8144



感震ブレーカーを設置しましょう！

～地震時の電気火災対策を～ 家族の命、財産を守るために！

地震による建物火災の半数以上の原因が、電気機器からの出火や停電復旧後の通電で発生する「電気火災」です。地震によって電気ストーブ周辺に物が散乱したり、電気コードが損傷したりすると、通電時に火災の原因となります。そこで、出火防止対策に有効なのが、揺れを感知した際に電気を自動的に止める「感震ブレーカー」であり、さまざまなタイプがありますので特徴を理解した上で設置しましょう！



分電盤タイプ (内蔵型)	分電盤タイプ (後付方)	コンセントタイプ	簡易タイプ
分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを感知し、ブレーカーを落として電気を遮断。	分電盤に感電機能を外付けするタイプで、漏電ブレーカーが設置されている場合に設置可能。	コンセントに内蔵されたセンサーが揺れを感知し、コンセントから電気を遮断。	ばねの作動やおもりの落下によりブレーカーを落として、電気を遮断。
約5～8万円 (標準的なもの)	約2万円	約5,000円～2万円	3,000円～4,000円程度
電気工事が必要	電気工事が必要	電気工事が必要なタイプと、コンセントに差し込むだけのタイプがある	電気工事が不要

リチウムイオン電池搭載製品からの出火が増加しています！

～モバイルバッテリーなどからの発火事故を防ぎましょう～

リチウムイオン電池が使用されている製品

- ・スマートフォン
- ・タブレット
- ・ヘアアイロン
- ・ワイヤレスイヤホン
- ・ハンディファン
- ・電気掃除機
- ・電気歯ブラシ
- ・電気美顔器
- ・電気脱毛器
- ・電気かみそり
- ・デジタルカメラ
- ・ドローン
- ・電動工具
- ・電動アシスト付き自転車
- ・携帯電話の充電器 (モバイルバッテリー)
- ・携帯ゲーム機
- ・電子タバコ
- ・ノートパソコン
- ・ビデオカメラ
- など

※リチウムイオン電池は、可燃性の有機溶剤（危険物の引火性液体）を使用しているため、衝撃などにより電池内部で短絡して出火する危険性があります。また、破損や過充電なども発熱・発火の原因となる可能性があります。

リチウムイオン電池の火災を防ぐために

- ▶ 充電器やバッテリーは製品に付属されていた物やメーカー指定の商品を使用する。非純正バッテリーは使用しない。
- ▶ 破損・膨張などの異常がある場合は使用しない。高温となる場所に放置しない。
- ▶ むやみに家電製品を分解・修理・改造しない。 ▶ 水のかかる場所では使用しない。
- ▶ 耐用年数を超過した製品は使用しない。リコール情報を確認する。
- ▶ 充電が最後までできない、使用時間が短くなった、充電中に熱くなるなどした際には、使用せず、メーカーや販売店に相談する。



非純正バッテリーによる事故が多く発生しています

多くの事故は使用中や充電中に発生していますが、特に最近では充電後に置いていただけで発火に至った事故も報告されています。非純正バッテリーの中には純正バッテリーよりも多くのリスクを抱えているものがあることを認識してください。



問い合わせ先 敦賀美方消防組合 消防本部 予防課 ☎ 22 - 9994